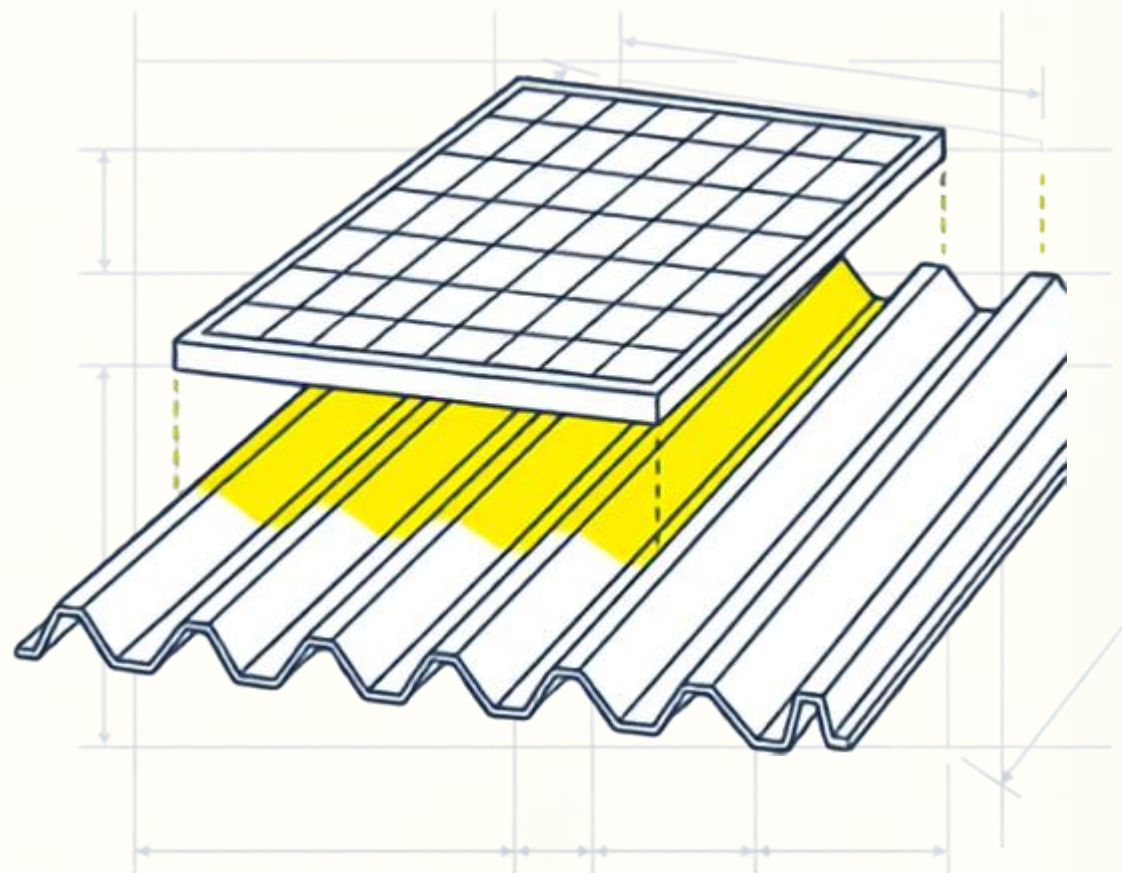


工場・倉庫オーナー様へ

ソーラーパネルを載せる前に、 屋根を「20年仕様」にする。

折板屋根 遮熱・防錆・防水コーティングのご提案
パネルを載せた後では、屋根に手が入りません。



株式会社スケッチ
ビジネスマネジメント

太陽光パネル設置の前に！屋根塗装の「寿命」を合わせる新常識

① パネルと塗装の「寿命のズレ」が問題



太陽光パネル
(20～30年)

30年



一般的な塗装
(10～12年)

12年

② 設置後の塗り替えは「余計な費用」が発生



足場代



+ パネル脱着費用



余計な費用

③ 「20年仕様の塗装」でメンテナンス不要に



高耐久塗装 + 太陽光パネル
(20～30年)

30年



0

将来の屋根工事ゼロ

ソーラーパネル設置「前」の屋根塗装が絶対にお得な理由

ソーラーパネルを載せる前に屋根塗装を済ませるか、20年後に後回しにするかで、必要な手間とコストに天と地ほどの差が出ます。

設置前なら、わずか2工程で完了

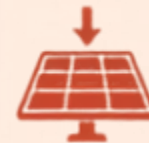


1. 足場



2. 塗装
(屋根全体を隅々まで)

設置後だと、工程が「5つ」も増える



1. パネル・架台脱着



2. 配線確認



3. 足場



4. 塗装



5. パネル・架台再設置



6. 保証の確認



7. 発電停止・売電損失



脱着だけで最大
約875万円の追加費用
(100KWの場合325万～875万円)

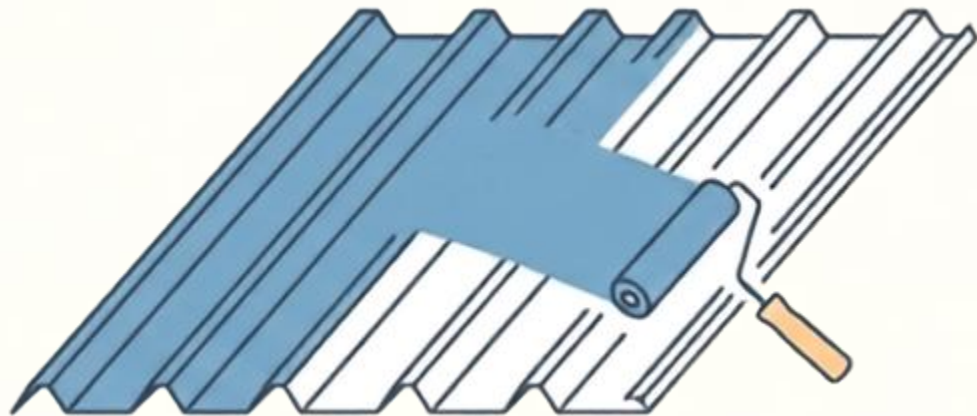


工事中の発電停止という
大きな損失
(売電収入・自家消費メリット消失)

解決策：太陽光パネル2段構えの防衛策 — 塗ってから、載せる

1

Step 1 (設置前 - 折板屋根へ)

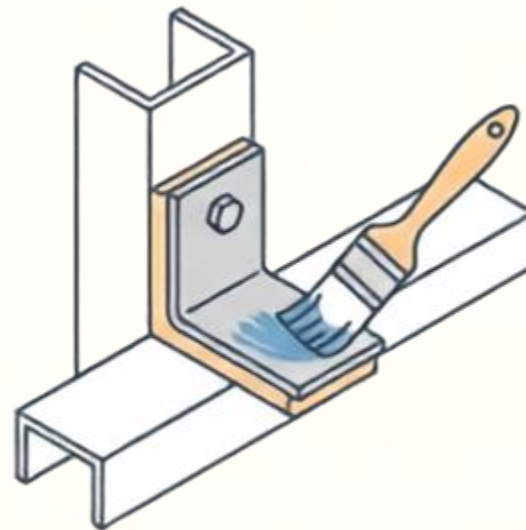


Step 1 (設置前 - 折板屋根へ)

20年仕様（トリプルガードコート）を塗り、
パネルと屋根のライフサイクル周期を合わせる。
もう開けられない面を先に守る。

2

Step 2 (設置時 - 架台へ)

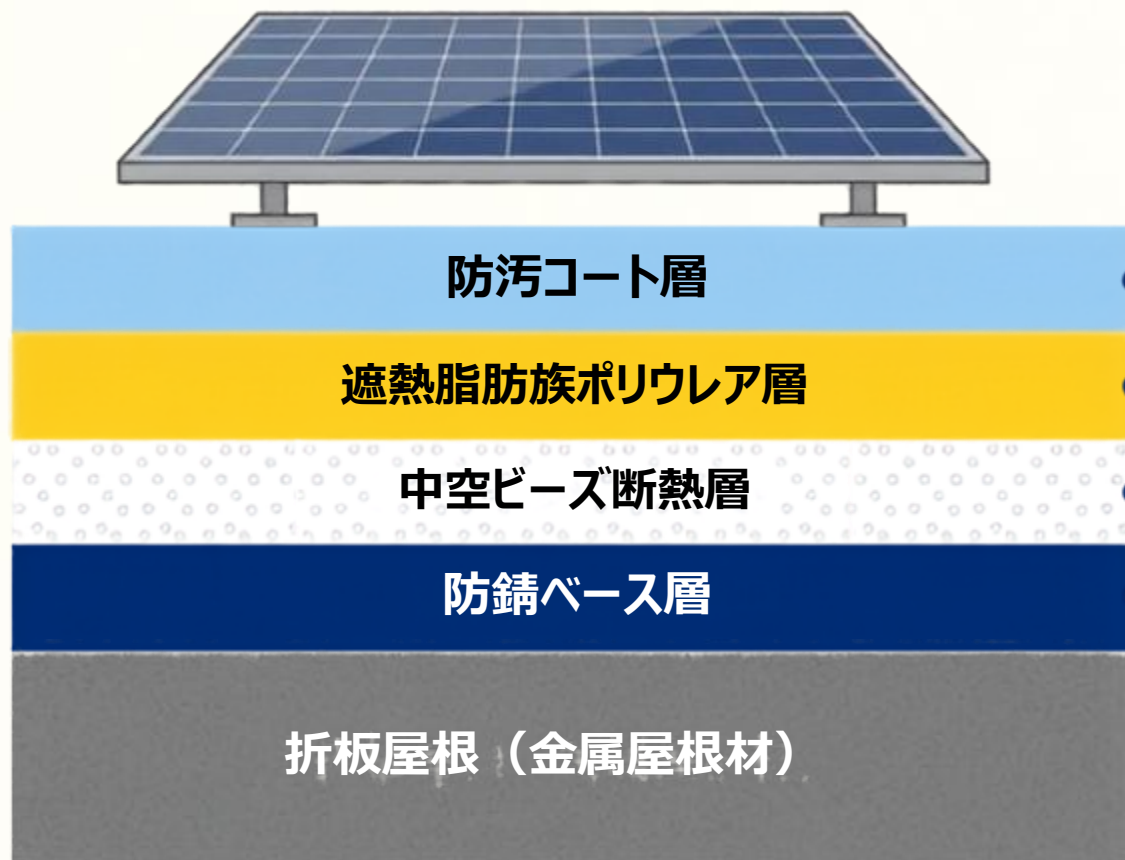


Step 2 (設置時 - 架台へ)

異種金属が接する部分を被覆し、電食の起点をつくらせない。

省エネトリプルガードコートの防御ライン（4層構造）

遮熱＋断熱＋防汚＋防錆＆防水10年保証を、1回の施工で同時に入れます。



防汚コート層（スーパーガラスバリア）：
超親水効果で汚れを防ぎ、遮熱性能を長く維持する最表層。

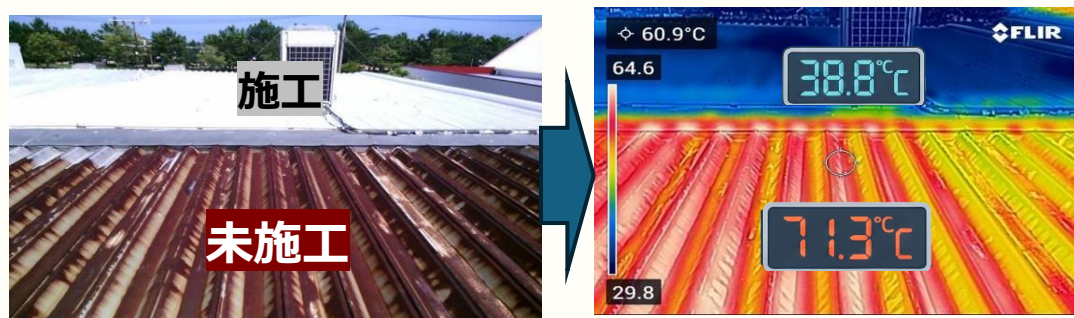
遮熱脂肪族ポリウレア層（省エネシールドPu）：
強力なUV耐性と防水性。塗替えサイクルを20年へと延ばし、
パネル稼働期間と一致させる。

中空ビーズ断熱層（省エネカバーコート）：
中空ビーズを60%含有（通常は30～40%）。
空気層で熱伝導を強力に遮断。

防錆ベース層（ラストシールド）：
10年間の防錆保証。架台の電食と落滴腐食に対する「最初
の防衛線」。

表面温度 20~30℃差。圧倒的な遮熱断熱効果。

折板屋根、表面温度



折板屋根温度差

-32.5℃

室内屋根、表面温度



室内屋根温度差

-20.5℃

屋根表面温度が
最大32.5℃低下

71.3℃あった屋根表面が38.8℃
まで下がり、建物への熱の侵入を
入り口で遮断します。



室内天井の温度も
20.5℃ダウン

天井からの輻射熱(放射される
熱)が抑えられ、作業者の頭上の
熱気が解消されます。



WBGT(暑さ指数)を
確実に下げる

空調がない倉庫でも、天井温度を
下げることで熱中症リスクの指標
であるWBGTを抑制可能です。



空調の消費電力を
大幅に削減

屋根からの熱流入が減ることで
冷房負荷が軽減され、電気代の
コストダウンに貢献します。



目的が「資産保護」だけなら、3層コート、防水シールドプラン。

防水＆防錆10年保証に特化。



遮熱脂肪族ポリウレア層

遮熱脂肪族ポリウレア層

防錆ベース層

折板屋根（金属屋根材）

屋根を守る層はそのまま。
脂肪族ポリウレア層に厚みをつけて
防水強化。

遮熱脂肪族ポリウレア層（省エネシールドPU）：
強力なUV耐性と防水性。塗替えサイクルを20年へと延ばし、
パネル稼働期間と一致させる。

防錆ベース層（ラストシールド）：
10年間の防錆保証。架台の電食と落滴腐食に対する「最初の防衛線」。

※防水シールドプランは省エネシールドPU自体に遮熱性がありますが、
断熱層・防汚層を含まないため、省エネ効果は訴求・保証の対象外としています。

折板屋根塗装：目的に合わせて選ぶ3つの最適プラン

まずは「目的」を明確にする



屋根を貸す（PPA）



自分で電気を使う

資産保護のみ

省エネ・熱中症対策

プラン①：防水・資産保護に特化



屋根貸しや空調のない倉庫に最適。



10年防錆・防水保証



20年の耐候性

プラン②：屋根の遮熱で
空調費15%削減



自社で電気を使う場合のコスト課題
を解決します。



表面温度を20～30℃下げる

プラン③：室外機も守って
空調費30%削減



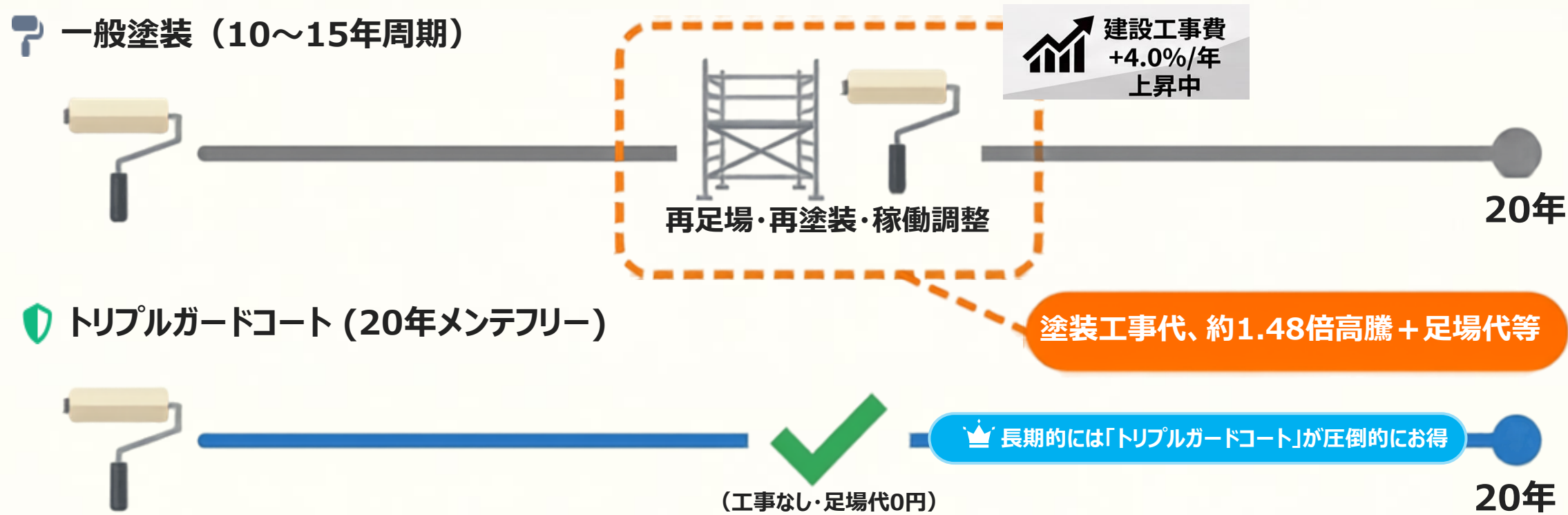
電気代削減効果を最大化したい
ケースに最適です。



屋根と室外機のダブル対策

20年間の屋根維持コスト比較

ソーラーパネルの問題解決 + 屋根塗装の投資回収・長寿命化



工事費の上昇で、損益分岐は 4,400円 → 3,548円/㎡ + 足場代等へ

相場レンジは4,000～7,000円/㎡。上昇を入れれば下限4,000円でもトリプルが安い。
分岐点は塗装単価のみの比較で、足場は両案とも別途。足場を入れると一般塗装は2回組むため、
分岐点はさらに下がる（足場2,000円/㎡なら2,354円/㎡）。

上昇を見込まない 建設工事費 +4.0%/年 労務費 +6.0%/年

4,400
円/㎡

3,548
円/㎡

3,153
円/㎡

工事費上昇率は国土交通省「建設工事費デフレーター」および「公共工事設計労務単価」（13年連続上昇）に基づく想定。10年後の倍率は +4.0%/年で1.48倍、+6.0%/年で1.79倍。金額は名目値で、現在価値への割引は行っていません。一般塗装の単価は公開相場（4,000～7,000円/㎡）、トリプルガードコートは8,800円/㎡、いずれも税抜・足場別。御社の実勢単価での差し替えが必要です。

ソーラーパネル設置前の「屋根保護」4つのステップ

屋根はパネルを載せた瞬間に「手の届かない資産」になるため、設置前の対策が重要です。

①現地調査で劣化状況を確認



錆の進行や下地の状態をプロが診断し、ソーラーパネル設置の調査と同日実施も可能。

②最適なプランとお見積り



防水や省エネなど、屋根面積に応じた複数の比較プランをご提案。

③パネル設置前のスピード施工



ソーラーパネル設置のスケジュールを遅らせることなく、設置前に屋根塗装を完了させます。

④架台被覆と確実な引き継ぎ



接合部を塗装し、電食を防ぎ、万全の状態パネル設置業者へ引き継ぎます。